

サッカー

ファミリー 倉見 享子

サッカーは、大阪保健医療大学彩都キャンパスにて、10月3日から年内5回の予定で練習が再開されました。特例会社からの参加のアスリートは、会社の事情で参加されませんでした。

少人数での練習で、また、久しぶりでしたので、少しずつ体を動かして慣らしながらのメニューで、アスリートもコーチたちも良い感じにゆったりとしていました。改めて、皆で集まって楽しく練習ができる環境は大切だと感じました。皆の笑顔が見られて良かったです。



柔道

ヘッドコーチ 辻 和也 (わらしべ会)

新型コロナウイルスの影響を受け2月の末から練習を中断していましたが、ようやく、10月から再開することができました。

これまで練習していた柔道場は入所施設（わらしべ園）内にあり、まだ入館規制が続いていることから、再開は隣の棟の疊のない場所で行っています。まだしばらくは基礎練習のみとなりますが、いつものメンバーが集まってくれているので、みんなでこの状況を乗り越えていきたいと思っています。



卓 球

北河内会場

ヘッドコーチ 浦本 朋視

北河内卓球プログラムは2月16日以降、新型コロナウイルスの影響で、9月20日まで中断されました。9月の再開後は、今までとは違い、使用する卓球台を減らしたり、利用する体育館の窓を開けて換気を行ななどの対策をとって、プログラムを実施しています。

卓球はその競技性から、ソーシャルディスタンスが確保できていますが、競技をしていないアスリートが待機しているときには、互いに距離を保つように、コーチ、ファミリーが確認するようにしています。

参加アスリートは、緊急事態宣言は体育館が閉館となるなど、それまでプレーする機会が少なかったこともあります。今まで以上に卓球に取り組んでいるように思います。

プログラムもアスリートの技術レベルに合わせて、コーチが指導してきましたが、利用できる卓球台が少ないこともあり、技術レベルに関係なく組み合わせるように工夫するように取り組んでいます。

これからもアスリートが卓球を楽しめるようにファミリー、コーチが共に協力して取り組んでいきたいと思います。

大阪工業大学会場

ファミリー 石川 まり子

工大卓球は、大阪工業大学の体育館をお借りして、活動しております。が、2020年………

コロナウイルス感染拡大で、収束の日処がたたず、前期・後期プログラムの日程がすべて中止となってしまいました。

色々な活動やイベントも中止になり、生活面でもこんなに日常が変わってしまうとは思ってもみませんでした。

これからも体調に気をつけて、みなさんと一緒に元気に楽しく活動できるのを心待ちにしております。



北河内会場

アスリート 馬場 環美

卓球プログラムが再開できてしばらく会えなかった人と会えて良かったです。コロナの影響でプログラムが中止になつて私自身は不安定な気持ちの切り替え大変でした。

今の目標は仕事でカウンターやドライバースルーを1人前になるとソフトクリームとワッフルコーンを上手になることです。

北河内会場

アスリート 森永 小百合

9月20日にプログラムが再開してからメンバーと会えたのが良かった。でも夏の合宿に行けなかったのはショックだった。次、合宿があれば参加したい。プログラムや合宿でメンバーに会うのが楽しみで仕方ないです。これまでの活動での思い出はバスケ、フロアホッケー、卓球の全員で体操できました。

体 操

ファミリー 森井 充美

現在、体操プログラムは米永コーチの下、寝屋川支援学校・交野支援学校四條畷校にてアスリート7名で活動しています。

準備体操からマット運動やロイター板を使っての跳馬、ボール運動など盛り沢山の内容で取り組んでいます。

アスリート一人ひとりを尊重していただくご指導で、楽しみながら興味関心や意欲、そして自信が持てるよう、盛り立て励ましながら毎回進めてくださっています。

いつも和気藹々とした雰囲気の為、チームワークも抜群です。声援やアスリート同士での準備や片付ける姿が見られます。これからもアスリート一人ひとりが笑顔で輝きながら活動できるよう、応援・フォローしていく所存です。



プログラム活動報告

フロアホッケー

北河内会場

ファミリー 川谷 千春

9月27日、7か月ぶりのトレーニングが再開されました。外出など制限が多い時間を見過ごしたせいか、私も息子もこの日を待ちわびていました。また、アスリートやファミリーの皆様との再会もとても嬉しいものでした。コーチからは参加するにあたっての注意事項や少しづつ体を動かしていきましょうという話があり時間も短縮してこの日のトレーニングは終了しました。

ですが、息子は「久しぶりで疲れた」と言っていましたので、少しづつでも運動を続けることの大切さを改めて感じました。



中河内会場

ファミリー 米原 功子

フロアホッケーのプログラムが再開され久しぶりにスティックを持ち、みんなと元気に楽しく活動しています。

我が息子は北海道ナショナルゲームが中止になってしまったことをとても残念がっていました。次回のナショナルゲームに参加して世界大会にも行きたいと話しています。4年後開催される状況になっていれば良いのですが。

今は感染予防しながら少しづつとの活動が出来るようになっていけばと思います。

みんなで頑張っていきましょう。



中河内会場

ファミリー 東 加奈子

ようやくプログラムが再開して、少し前までの活動に戻ってきました。

長い活動休止の期間中、SOへの参加がアスリート達にとって本当に得難い機会であることを痛感しました。

久しぶりのプログラム、毎回アスリート達の生き生きと笑顔で身体を動かす様子に、見守る私たちも嬉しくなります。

こんな状況だからこそ、健康で運動して汗を流せる有り難さを感じます。

感染予防対策として手洗いや手指消毒・使用後の会場の清掃除菌等を、コーチ・ファミリー・アスリートで協力して行っており感染者は出ておりませんが、実際のところ徹底した対応が出来ているのかというあたりが、少し気になっていきます。

感染症への不安から以前の日常を取り戻せずに過ごす方もおられますし、活動を続けて行くためにも「対策を徹底している」と言える形にしたいところです。

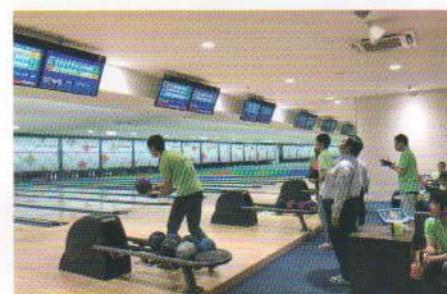
ボウリング

アルゴボウル

ファミリー 井口 澄子

アルゴボウルでのボウリングの再開は、全体を半分に分けて、2週間に1度の練習になりました。ボウリング場に入り、マスク着用、手の消毒をして、受付で体調チェックのプログラム参加票を提出して始まります。

練習は、今までのアメリカン方式の1フレームごとに交互に投球から、ヨーロピアン方式の1レーンのみの投球に変わりました。ソーシャルディスタンスを取り、ハイタッチはせず、ガッツポーズになりました。ボウルを拭くのは、ボウリング場のタオルは使わずに、自分のタオルのみを使用することになりました。ファミリーやヘルパーさんは、少し離れて拍手で、応援しています。アスリートは皆その環境に適応して、楽しく練習ができます。やはり、全員が揃わないと少し寂しいですので、全員で練習ができる事を望みます。早くコロナ感染が収束して欲しいです。



なわてボウル

ファミリー 桑野 三枝

なわてボウルの活動は、人数と活動日を、折半して、半分の人数で、半分の活動日での再開でした。アスリートの皆さんには、全員に会えない事は寂しくても、活動が出来て喜んでいます。家にいるより、活動をしている方が充実しています。

アスリートは、手を洗う、マスクをする、間隔を開ける事も、きちんと守ることが出来ていて、安心して活動が出来ています。アスリートは、前以上にしっかりして、成長していると思いました。

コロナ禍の中でも活動が出来たことに感謝しています。アスリート、家族のSOへの思いと、それを支え、活動再開のために、奔走してくれたSON・大阪の本部をはじめとしたボランティアの皆様のお陰と、心よりお礼申し上げます。

アローボウル

ファミリー 渡辺 真由美

再開の第一回目は手洗いやボールを自分のタオルで拭いたり、ハイタッチ禁止、アメリカン方式からヨーロピアン方式への変更などなど、ちゃんと対応出来るか心配しておりましたが、だんだんアスリートもファミリーも慣れてくるとスマーズに出来る様になってきました。ただアスリートによってはハイタッチしたくてウズウズしているみたいです。早く以前の様にストライクやスペアが出た時にハイタッチが思い切り出来る環境に戻れれば良いのになと思います。



WAVE34

コーチ 井上 幹一

WAVE34会場は、21名のアスリートが参加をしています。再開へのガイドラインを作成している中で、全員が参加しては、安全を確保するのは、難しいと判断して2班編成での隔週開催にしました。各レーン2人で、行っています。会場の対応は、1ボックスごとに透明の仕切りが設置され、消毒液も所々に設置された状況で配慮された環境であったことも再開へ向けて進むことができました。

再開プログラムでは、ハイタッチの代わりに拍手やガッツポーズで思いを伝えました。長年行っていたハイタッチや大きな声での応援がない淋しさがありましたが、ピンがたくさん倒れた時のアスリートの笑顔は、変わりません。感染拡大防止をしっかりして継続できることを楽しみにしています。

フライングディスク



ファミリー 麻生 佐和子

コロナ感染の広がりで利用しているファインプラザ大阪が休館になり、開館後も活動自粛で10月下旬にようやく練習会をすることができました。今までと異なり、練習場所に到着するとまず手指の消毒をします。それから、体調管理シートを記入し、安全を確認してから練習会が始まります。ファインプラザで貸し出していたフライングディスクの道具は今まで自分たちで倉庫から出して使わせていただいていたのですが、コロナが広まってからは職員に数量をお知らせして出して頂くようになりました。利用後は全ての道具の消毒をして頂くため、人数分のゴール、人数分×10枚のディスクなど最低限の道具を用意して頂いています。うつかり使う物以外の物に触ってしまうとそれも消毒の対象となるため、準備をして頂く間は、アスリートもファミリーも手を出さないように気をつけて待っています。練習は密にならないように距離をとり、上手くできたときのハイタッチもなしで盛り上がりはなく個々に静かに練習をしています。コロナ前よりは早めに練習は終了して、倉庫の前に全ての道具をそろえておきます。最後にまた手指の消毒をして解散となります。いろいろ注意が必要ではありますが、行く場所もとなって困っていたのに練習が再開出来るようになったことはたいへん良かったです。残念ながら12月の練習会は大阪府の不要不急の外出禁止要請で中止となり、今年の練習会は終わってしまいましたが、来年再開できることを祈っています。



陸 上

北河内会場

ファミリー 川端 京子

心待ちにしていました、北河内陸上プログラムが9月末から再開しました。

陸上メンバーは35名ですので、2班に別れての活動再開になりました。

半年余り活動を休んでいましたので、体力を取り戻せるか不安でしたが、息子は久しぶりにアスリートの皆さんと一緒に体操、ウォーキング、ランニングが出来て喜んでいました。少しずつ感覚が戻っていました。今回は2班に別れての活動でしたので、会場準備物の引き継ぎに、コーチやファミリーの方々にご協力を頂き助かりました。

ありがとうございました。早く以前の日常が戻り、アスリート全員とプログラムができる日が来るよう願っています。



中河内会場

ファミリー 小林 和美

プログラムが2月に休止となり9月から再開された時、とても安堵したのを覚えています。いつものプログラムの半分の時間でしたが、アスリートには『いつも通り』という安心感と、なかなか外で体を動かすことが難しかったのでよい運動になったと思います。ファミリーとしても皆さんに久しぶりに会う事ができ、いろいろ話せて発散できました。陸上のコーチもこの状況でプログラムには参加できなかった中、連絡などを密にいただきいつも気にかけてくださっていたのを感じました。また事務局の方々も時間をやりくりしてアスリートのために来てください本当にありがとうございました。

『いつも通り』がかけがえないことを思い知らされる1年でしたが、来年は1日でも早く状況が落ち着き安心して参加できる環境になることを願っております。早く競技会など目標を持って参加できる日が来ますように。そしてアスリートファミリーとも楽しく参加できるよう健康には十分留意して、今出来ることをやってこの状況を乗り切っていきましょう。

1年間、本当にありがとうございました。

SO 日本 リレーマラソン

事務局長 井上 幹一

スペシャルオリンピックス日本主催で、10月1日(木)～12月10日(木)の期間、オンラインで実施されました。SON・大阪からは、北河内陸上プログラムからアスリート8名、コーチ2名で1チーム、ファミリーチームとして2チームがエントリーしました。その他個人エントリーとして2名のアスリートが参加しました。

マラソンは、各自が走破した距離を自己申告し、その総合計を計算して、日本1周を目指しました。イベントが、開始されてすぐに日本1周12,000Kmは、達成され、世界1周に目標が上げられました。最終的には、全参加者で、247,222Kmを達成しました。陸上チームは、期間中の土曜日3回枚方の府立山田池公園にて、合同記録会を実施しました。その他、各自毎日のトレーニングの走行距離を申告しました。

最終走行距離は、10名の合計で800Kmでした。ご参加の皆様は、今年すべての市民マラソンが中止になるかな、走る機会があつて良かったと久しぶりの長距離走を楽しんでいました。



ゴルフ

ファミリー 小滝 真由美

ゴルフプログラムは、12月に最終練習を終え、寒い間はお休みして、3月後半から、次のプログラムが始まります。待ち遠しい春が、今年は夏が過ぎ、9月となりました。

久しぶりに集まったアスリート、コーチのみなさん、そして家族たちも本当に嬉しかったです。色々な体調管理も、苦にせず、大好きなゴルフの為に、張り切っています。

以前なら、待つこと、我慢することなど、苦手でしたが、コロナ禍の現状のなか、生きていいく上で、アスリート達も、知らず知らず力をつけています。ゴルフは、競技上、ある程度の、距離感は必要であり、それほど蜜にならず、取り組めています。

これからもこの状態で続けられますように切に願います。

アスリートの笑顔の為に、コロナウイルスが、早くなくなりますように…！

新役員紹介

理事 山本 尚



理事 浅野 なつみ



今、私は中河内フロアホッケーチームに所属しています。高校1年生から始めてもう10年になります。中河内のチームメートは10名ですが、みんな仲良く楽しく活動をしています。北河内フロアホッケーチームとの交流もあり、友だちが増えました。学校を卒業し仕事を始めてからは友だちを作る機会が少なかったのでよかったです。

また今回アスリート理事になりました。理事会ではアスリートを代表してみんなの意見を発表しました。これからも、いろんなプログラムで活動するたくさんのアスリートのためにがんばりたいです。また来年開催されるパラリンピックのようにスペシャルオリンピックスのこと多くの方々に知ってほしいです。これからもがんばりますので、よろしくお願いします。

認定特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・大阪

●会員報告(2020年12月31日現在)

正社員／32名
一般会員／745名
賛助会員／法人会員 30団体
個人会員 600名

私は、中学生の時にスペシャルオリンピックスに入りました。今年で7年目です。今は、バスケットボールとボウリングと柔道をしています。

私は、スペシャルオリンピックスが大好きです。優しいコーチやアスリートたちと活動するのはとても楽しいです。

スペシャルオリンピックスの一番の思い出は、世界大会を行ったことです。世界大会を通して、貴重な体験をさせてもらいました。

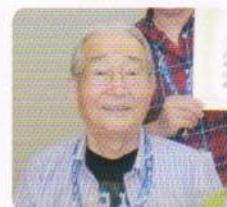
しかし、残念なことがあります。一つ目は、友達にスペシャルオリンピックスと言っても、みんなに「何それ?」と聞かれることがあります。二つ目は、コーチが少ないとことです。本当はもっとたくさん練習して上手になりたいと思いますが、コーチが少ないのでできません。私は、スペシャルオリンピックスのことをもっともっとたくさんの方々に知りたいなと思います。そうすれば、コーチも増えると思います。

どうすればたくさんの人にスペシャルオリンピックスのことを知らせることができるか、アスリート理事になって、皆さんと一緒に考えていきたいなと思います。

計報お知らせ

広報誌「いにのさん」の創刊以来前号61号まで編集をしていただいていた、SON・大阪理事の隅田喜郎さんが、12月5日未明にご逝去されました。

カメラを抱えて、活動会場を取材いただきアスリートの生き生きとした表情を撮影いたしました。親しく



なるとアスリートも力の抜けた表情を見せてくれていました。残念ながらコロナウィルス感染拡大防止のため、闘病中の面会はかないませんでしたが、病床におきまして、ご家族には次号の発行のことを気遣っていました。今后も、隅田さんの思いを引き継ぎ、「いにのさん」の発刊を継続していくことをお誓いし、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(事務局長 井上 幹一)

編集後記

62号をお届けするまでに、いろいろなことがありました。毎年の行事や日常トレーニングの休止、そして、再開、また、現在は残念ながら休止と落ち着かない1年でした。設立25周年を迎える今年、スペシャルオリンピックスの認知度を高めるための取り組みも自粛となりました。「笑顔をつむごう」と取り組んだ中でたくさんの力をいただきました。また、各会場からの報告にも力をもらいました。来年は、再開し継続できることを強く願い準備をしています。今号の題字は、「飯伏拓郎」さんです。

(事務局長 井上 幹一)

2020年 ご協賛いただいたみなさま(順不同・敬称略)

SCSK株式会社	SCSK社会貢献活動クラブEarth One	ダイキン工業労働組合
明治安田生命保険相互会社	マルホ株式会社	おそうじ本舗 住道店
株式会社 きんでん	三井住友信託銀行	サントリーホールディングス株式会社
一般社団法人大阪府サッカー協会	恩地食品株式会社	宗教法人四天王寺
弁護士法人 淀屋橋・山上合同	株式会社産業経済新聞社	ネットトヨタニューリー北大阪株式会社
有馬口イヤルゴルフクラブ	株式会社コミュニティスタイル	学校法人エール学園
学校法人塙本学院大阪芸術大学	株式会社望月	株式会社 ベイ・コミュニケーションズ
株式会社あしすと阪急阪神	ホサナ株式会社	千房株式会社
株式会社日本パーソナルビジネス	大阪シティ信用金庫	土屋医院
大阪新梅田シティライオンズクラブ	かごみ	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
赤松 祐吉	小川 節子	高橋 真由美
井原 宗義	坂田 良雄	玉井 恵美子
中村 忠雄	野 利雄	古田 俊雄
	福本 幸子	柳瀬 彩子